

レモンマーケットを知ろう

レモンマーケットとは、商品の品質が買い手にわからないために、外見だけが良い不良品が出回ってしまう市場のことだ。

レモンとは、外見が綺麗でも切ってみると中身が腐っていることがあるので、外見と中身のギャップが大きいときに「レモンみたい」って使われるわけだ。

英語で「お行儀の悪い女の子(お転婆娘)」等の意味で使われ、経済学では、購入してみないと本当の品質が判らない商品の市場において「欠陥品」や「低品質の商品」が出回ることを言うわけだ。

ビジネスで例を挙げると、中古車の販売店では商品の欠陥(悪い点)を知っていても、なかなか買い手に正直に教えることをしない。すると、買い手は品質を判断する情報が無い(少ない)ので高額な車は買わない気分になり、安い車を買ってしまう。その結果、品質の良い中古車が市場に出回らなくなって、中古車市場は売上が低迷するといった具合。これが、「レモンマーケット」だ。

未曾有の超高齢問題を抱える日本は、もはや医療保険制度は破綻していると言われており、国は 1200 兆円を超えるとんでもない借金を抱えていることは誰でも知っている。したがって、医療改革が吹き荒れて、1件 1,000 円の利益があった肝臓の検査は、たったの 15 円になってしまい、1990 年に 10,000 施設を超えていた一般病院は、2020 年では約 7500 施設に減ってしまった。

病院の倒産や吸収合併が続いている状態である。おもしろいことに、天下りの多い製薬会社が薬害事件を起こしても、全く倒産しないことは世界でも有名なことだ。

収入が減った医療施設にとって、高度な医療の質を維持することは困難となってくるので、外見をゴージャスにして人員削減とサービスの質を落として経営を維持する方向に傾いている。

中には、政治家や行政と癒着をして生き残ったり、携帯電話市場のように(コモディティ化が進んで)何の特徴もないサービスばかりの医療施設になってしまう。

「質よりも利益」というレモンマーケットになっちゃったわけだ。

お客さんの笑顔が減ったな、職員たちも笑顔が減ったな、玄関先がバッチクになったな、なんか社長室に居ても楽しくないな、自分の施設がレモンになったかどうか確認する方法はいくらでもあるんだから、立ち止まって信頼できる人と戦略と戦術を練り直そう。

社長一人の力では限界があるので、そこで人的資源を有効に使うわけだ。

もちろん、経営理念を貫きながらだけだね。